

1 ナンシーの自宅のエントランスにたたずみ、友人を迎える入るよにほほ笑むジャン・ブルーヴェ。船の舷窓をほうとうとする小さな丸窓がついたパネルを扉代わりに使っている。2 玄関を入って右に曲がると、大きなガラス窓で外光を十分に取り入れた開放的なリビングが広がる。屋根をしっかりと支える天井梁が、元は床下用に開発されたものを転用しているとは驚かだ。



© Centre Pompidou, MNAM-CCI Bibliothèque Kandinsky, Dist. RMN-Grand Palais / Fonds Prouvé / distributed by AMF © ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2022 E48II

工具を多数手掛けるなど、数々の偉業を残したブルーヴェだが、真骨頂とも呼べるのが、現在のブレハブ建築にも通じる組立式仮設住宅の設計だろう。

ナンシーの自邸は、少人数で建設可能なところでは彼が手がけたほかの住宅にも通ずるのだが、大きく異なるのは部材の選定方法。ブルーヴェ本人も「この家は、ある種特別で、例外とも言えるものだった」と回顧録のなかで述べている。

ジャン・ブルーヴェがこの家を建てたのは1954年。ちょうど彼が人生最大のトラブルに巻き込まれた時期と重なる。当時彼はナンシーエ郊外のマクセヴィルに大規模な自社工場を構えていたのだが、ある日、経営上のトラブルから突然その職を失い、資材をどのように手に入れ加工するかだった。

もともと彼の建築思想の根幹にあったのは、部材は無駄なく、最小限に収めるという精神であり、ビス工場を構えていたのだが、ある日、建物全体に負担がかってしまふからだ。無駄を省き、自宅を確実に建設するためにはどうすればいいか。考えあぐねた末、ブルーヴェが目をつけたのは、マクセヴィルの工場に残されたサンプル材だった。

工具を多數手掛けるなど、数々の偉業を残したブルーヴェだが、真骨頂とも呼べるのが、現在のブレハブ建築にも通じる組立式仮設住宅の設計だろう。

ナンシーの自邸は、少人数で建設可能なところでは彼が手がけたほかの住宅にも通ずるのだが、大きく異なるのは部材の選定方法。ブルーヴェ本人も「この家は、ある種特別で、例外とも言えるものだった」と回顧録のなかで述べている。

ジャン・ブルーヴェがこの家を建てたのは1954年。ちょうど彼が人生最大のトラブルに巻き込まれた時期と重なる。当時彼はナンシーエ郊外のマクセヴィルに大規模な自社工場を構えていたのだが、ある日、経営上のトラブルから突然その職を失い、資材をどのように手に入れ加工するかだった。

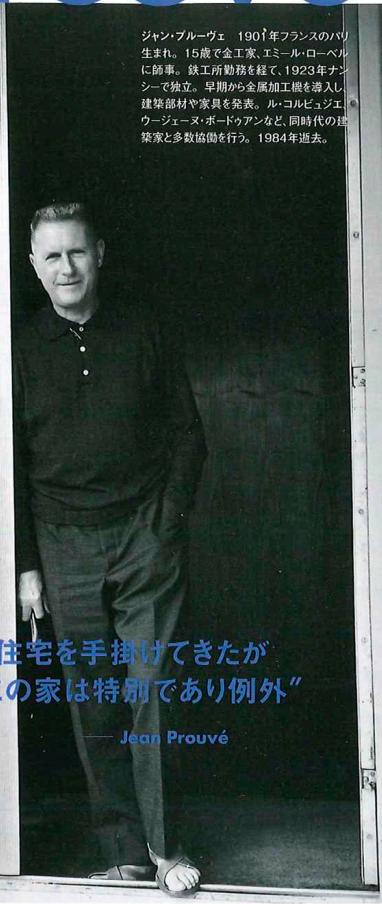
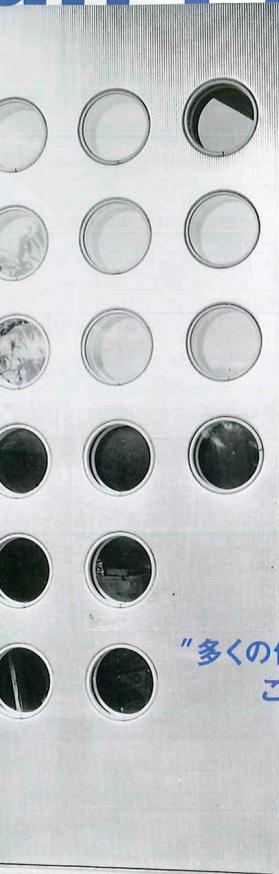
もともと彼の建築思想の根幹にあったのは、部材は無駄なく、最小限に収めるという精神であり、ビス工場を構えていたのだが、ある日、建物全体に負担がかてしまふからだ。無駄を省き、自宅を確実に建設するためにどうすればいいか。考えあぐねた末、ブルーヴェが目をつけたのは、マクセヴィルの工場に残されたサンプル材だった。



2

© Centre Pompidou, MNAM-CCI Bibliothèque Kandinsky, Dist. RMN-Grand Palais / Fonds Prouvé / distributed by AMF

ビンチを救ったのはエプロン  
工場に残されたサンプル  
構造家としてル・コルビュジエを  
はじめとした同時代の建築家と協  
働を重ねる一方で、「スタンダード」  
や「EM テーブル」などの名作家  
ブルーヴェの自邸はある。



“多くの住宅を手掛けてきたが  
この家は特別であり例外”

Jean Prouvé

# Jean Prouvé

ジャン・ブルーヴェ 1901年フランスのパリ生まれ。15歳で金工家、エニール・ローベルに師事。鉄工所勤務を経て、1923年ナンシーへ独立。早期から全般加工機を通して建築部材や家具を発表。ル・コルビュジエ、ワーヴェー・ボードウアンなど、同時代の建築家と多数協働を行う。1984年逝去。

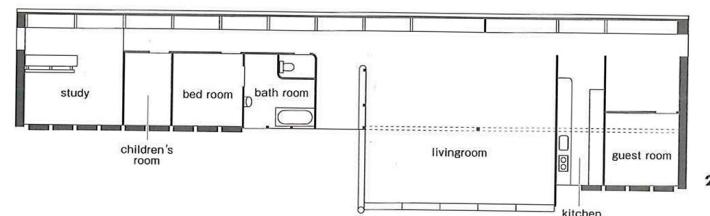
## Part 3 The Prouvé House ブルーヴェがつくり暮らした ナンシーの自邸へ

ジャン・ブルーヴェが1954年に建てた自邸は、わずか3ヶ月で建てられたという。彼のものづくりの意識が集約されているこの家に託した、ブルーヴェの思いとは?

Photos DEJAN JOVANOVIC(p.94-97, ©Vitro) SHUHEI SHINE(p.98 top) Text HISASHI IKAI  
Cooperation TATSUO IWAKA Illustration WADE



1 自宅に通じる細道から住居を見上げた様子。いかに急な斜面の上に家が建てられているかがうかがえる。2 ナンシーの自宅の図面。リビングを中心には、右側にキッチンと客室、左側に浴室、主寝室、子ども部屋、書斎を配置。プライベートとパブリックな空間を緩やかに区切っている。



“その場にあったものを寄せ集めて作った家”

Jean Prouvé

#### ブリコラージュ住宅

ブルーヴェが購入した土地は、元はワイン畠だったという傾斜地で、重機は入れられない。最小の手間で整地できるようになると、水平方向に細長く土地を整備。そこに完成したのは間口28メートル、最大奥行き8メートル、4つの個室と居間が長屋のように直列状に並ぶ平屋だった。実際し平屋に足を踏み入れ、建屋の奥を貫く細い廊下を行き来しながら、家の中を注意深く眺めると隅々にほかのブルーヴェ作品でも使われている建築バーットと同様のものを次々に発見する。玄関周りを囲むいくつもの小さな丸窓がついた扉はロワイヤンの議場など多くの建設で使われているパネルと同じデザインのもの。主寝室や子ども部屋の開口部に取り付けられた上げ下げ窓は、クロワマールのガラス工芸学校などで使われていたものを流用している。



「ナンシーの家は、緻密に設計したものというより、偶発的に、その場にあったものを寄せ集め、その場で考えながら作ったもの」  
当時の様子を、ブルーヴェはこのように回想するが、たまたま手に入ったバラバラの素材でも、巧みに組み合わせながら、家族が安心して暮らせる住まいを手に入れられたのは、常に机上のプランにとどまらず、日々工房で手を動かし、部材や建材のあり方を細かく考えてからにはかならない。

「書斎にいるときは静かに本を読んだり、仕事に没頭していたのですが、

居間で出でると暖炉の脇に家族を集め、BGMにパッハを流してはいるんな話をしてくれました。居間に

ついて「出会いを生む場所だから、

広くて心地よくなければならぬ」と言つて、いたのを覚えています」

ジャン・ブルーヴェの娘、カトリーヌは、「自邸での穏やかな暮らしを振り返る。1984年にブルーヴェが他界した後は、ナンシー市管理のもと住居として貸し出され、まもなく築70年を迎えるブルーヴェの自邸は、今でも當時と変わらぬ姿のまま、ナンシーの街を静かに見守っている。

## “リビングルームは出会いを生む場所”

Jean Prouvé



1 現在のブルーヴェ邸を撮影したもの。家具は入れ替えられているが、建物は当時のまま現存。建築からおよそ70年が過ぎた今でも、古びた様子がまったく感じられない。2 居間にはオリジナルデザインの暖炉も設置。描かれたイラストは、交流のあったアーティスト、ジゼル・ビンサルによるもの。3 主寝室から子ども部屋、書斎にかけては、アミミ製の上げ下げ窓を設置。スリットから漏れる光がやさしく室内を照らす。4 各居室の扉は、開口とともに丸みをもつて、柔らかな印象に仕上げている。5 書斎として使われていた西側の一番奥の部屋、ほかの部屋よりも窓の数が多いために、採光も十分だ。6 エントランスの右隣には、棚位置自由に変えられる可動式シェルフを設置。家の内側には構造体と一緒にになった樹が各所に配されており、機能性と持続性の二面からデザインを考えている様子がわかる。



また、大きなガラス窓に囲まれた開放的な居間の天井を貫く梁は、メゾン・トロピカルの床下用に開発された部材を再利用している。

家族が暮らすために工夫をこらした住空間



## 当時のカラーを再現した ブルーヴェコレクションが登場

今秋、ヴィトラのブルーヴェコレクションの  
カラーパレットが多彩に生まれ変わる！

### Petite Potence

極めてシンプルにデザインされた  
スイング式ウォールランプ

回転式アームの先に、電球を取り付けたミニマルなデザインの「ボテンス」。コンパクトサイズの「チ・ボテンス」のカラーがブルーマルクール、ジャバニーズレッド、ディープブラック、ブランコロンの全4色だ。「チ・ボテンス」(L104cm)￥113,000／ヴィトラ(以下同)

### Lampe de Bureau

1枚のスチール板から  
柔らかな光を発する照明

ナントー大学の学生寮ホールのためにデザインされた卓上灯。金属板が光を反射し、やさしく手元を照らす。既存のジャバニーズレッド、ディープブラックのほか、ブルーマルクール、ブランコロンの全4色。「ランプ ド ビュロ」(W24×D14.5×H22.5cm)￥40,000

金属にカラフルな塗装をよく施していたブルーヴェだが、これらは「アトリエ ジャン・ブルーヴェ」が考案したカラーパレット(写真)を基本としたもの。9月16日から販売予定の新色には、若い夫婦の穏やかな色をイメージした「フレッシュ」や、オランダ人画家、ヨハネス・フェルメールのグレーの色彩を再現した「グリエルメール」など、このパレットをもとにした独創的なカラーが追加される。

### Standard

機能性と美しさを兼ね備えた  
ブルーヴェの代表椅子

座ったときのバランスを考慮し、前脚は細く、後脚は太くしたアシンメトリックなデザインの名作椅子。新たにグリエルメール、フレッシュ、ブルーダイナスティ、ブルーマルクール、メタルブリュの5色が追加。「スタンダード」(W42×D49×H82×SH46cm)￥90,000

**ブルーヴェ作品を間近で堪能する  
建築＆プロダクト約120点**

東京都現代美術館で「ジャン・ブルーヴェ展 椅子から建築まで」が開催中だ。本展はジャン・ブルーヴェのオリジナル作品を取り扱うパリのギャラリー・パトリック・セカンと、アートディレクターでブルーヴェ作品の収集家としても知られる八木保氏が中心となり企画したもの。美術館の2フロアを使い、1階は家具を中心としたプロダクトを、地下2階では建築作品を紹介している。

通常、建築関連の展覧会は図面や模型などで構成されることが多いが、本展は「F 8 × B 8 × H 8 BC」組立式住宅や「メトロポール」住宅のプロトタイプを組み立てて展示する。また、家具のプロトタイプでは、後

イブなど、実物の住宅を館内に展示。家を美術館内で見られるというのもブルーヴェの建築が、解体と組み立てが可能であることの証しだろう。会場では住宅の組み立ての様子も動画で紹介。彼がいかに簡易に、そして確実な建設プロセスまでをデザインしたかがよく理解できる。

また、家具のプロトタイプでは、後に「スタンダード」と名付けられる椅子シリーズを時系列に約20脚展示。1934年に「チエア No.4」として登場以降、資材や加工法を工夫しながら、時代と共に改良を重ねていった様子もうかがい知ることができる。時を経ても、色あせることのないブルーヴェの世界。総勢約120点の展示をお楽しみください。

## ナンシーの自邸の展示も。 ジャン・ブルーヴェ展が開催中

2004年の回顧展から12年。今回はさらに規模を増し、実物の住宅をはじめとした圧巻のコレクションが並ぶ。



ジャン・ブルーヴェ展 椅子から建築まで

東京都現代美術館●東京都江東区三好4-1-1

☎050-5541-8600 9月~10月16日(日)

④月曜(9月19日、10月10日は開館。翌日休館)

⑤10:00~18:00(入場は開館の30分前まで)

料金￥2,000(一般) www.mot-art-museum.jp/

写真 (F 8 × B 8 × H 8 BC組立式住宅) Yuki Maesawa collection  
© ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2022 C3924

## 4 Jean Prouvé's House in Nancy

ナンシーの自邸

1930年、ブルーヴェは自邸を設計。アーチ型の屋根と木造の壁で構成されたこの家は、その時代の最新技術を用いて、建設費用を抑えることを目的としている。また、内装は木製の床板や天井、壁など、木の温もりを活かすデザインだ。この自邸は、ブルーヴェの建築理念を最もよく示すものとして、多くの人々に注目される。しかし、過度の雨による水害で倒壊の危機に陥る。そこで、ブルーヴェは、この自邸を再建するため、地元の住民や友人たちの手で、自邸を再建する。この自邸は、ブルーヴェの建築理念を最もよく示すものとして、多くの人々に注目される。また、内装は木製の床板や天井、壁など、木の温もりを活かすデザインだ。この自邸は、ブルーヴェの建築理念を最もよく示すものとして、多くの人々に注目される。